

が十分ではなかったこともあり、塚田九段に点数を稼がれ、引き分け（持将棋）となった。

(3) 第4局の対局終了後に、そのまま、将棋盤をはさんで立会人による原告及び塚田九段に対するインタビューが行われ(甲4の1。以下、「対局后感想戦」という。※甲3. 9頁2段目の写真), その後、正式な記者会見として運営会社、対局当事者等の関係者全体の会見（質疑応答）がなされ（甲4の2。以下、「全体感想戦」という。), 原告や塚田九段も同席した。

(4) 「対局后感想戦」「全体感想戦」は、塚田九段が、何とか負けを回避して、団体戦の勝敗を第5局につなげることができたことに感極まって涙を見せるシーンもあり（甲4の1, 甲4の2（3頁, 4頁)), いずれも和やかな雰囲気終了した。原告の受け答えも至って常識的であり、塚田九段に対して非礼と言われるような言動は一切なかった。

ところが、「対局后感想戦」において、原告が、インタビュアーの「対米長戦と今回を比べてみて、何か思うことはありますか。」という問いに対し、「去年もそうですが、ツツカナ戦とかポナンザ戦とか熱戦で名玉と言われてたんですけど、どうも私がやるとつまんなくなってしまう。」という発言をしたことにつき（甲4の1（3頁)), その言葉じりを捉えられ、週刊新潮4月25日号に、＜入玉でコンピューターと引き分け、「塚田九段」を泣かせた非礼感想戦＞という見出しで、原告が対戦相手に対して礼儀を欠き、それが塚田九段が涙を見せた一因となったという趣旨の事実と異なる記事が掲載された（甲2）。

※ 「ツツカナ」「ポナンザ（P o n a n z a）」はともに別のコンピューター将棋ソフトウェアの名称。

上記の原告の発言は、塚田九段との対局が、途中から双方入玉の状態となり、その後は点数勝負だけの間延びした内容になってしまったことから、見る側の方には見応え・面白みがなかったのではないかという申し訳ない気持ちから、自身を卑下する趣旨の発言であり、受け手もそのように解釈するはず

である。

全くもって、非礼な発言とは評価できるものではない。

(5) 被告内舘氏は、上記の新潮記事を読み、十分な事実確認をしないまま、本件記事を掲載した。

## 2 原告のブログ「A級リーグ指し手1号」について

前提として、被告内舘氏は、原告のブログ（甲5。以下、「ブログ」という。）を本件記事執筆前には確認していないと思われるため、ブログの内容は、本件とは関連がないと考えている。しかし、この点は、被告側から何らかの指摘がある可能性があるため、あらかじめ説明しておく。

(1) 原告は、第2回将棋電王戦の第4局の対局後に、対局の感想を自身のブログに掲載した。

ア 平成25年4月14日の投稿（下記は一部の抜粋である。甲4の1）

「電王戦は皆さんご存知のとおり持将棋引分けでした。観戦して下さった方々、ツイッターに反応して下さった方々、どうもありがとうございました。

まあとにかく、塚田さんの執念がすごかった、の一言に尽きますね。タイムシフトまだ見てませんが、木村さんが「困難に直面したときは、この対局のことを思い出してほしい」とか言ったそうですがwww 冗談か本気なのか知りませんが、将棋でこういう発言が成り立つこと自体普通ないですよ。

「悪の首領」を、倒せはしないまでもぎりぎり追い返せはしたし、ちゃんと(?) 絶体絶命のピンチにも陥ったし。観てる方としては盛り上がる理想的な展開だったのではないのでしょうか。

ただドラマとしての内容とは別に、将棋の内容という意味でいうと、やはり正直つまらなかったですね。去年もそうだったけど。いろいろな感じ方はあるでしょうが、私としてはツツカナやポナンザのような「まともな」将棋がやりたかったです。  
あ、もちろん塚田さんなり米長さんなりが悪いとかいうことは全くありません。勝

負なんですから、ルール上OKなことは何やってもよし。ただ、私の個人的願望が実現しなかったので残念に思う、というだけです。まあ塚田さんにせよ米長さんにせよ、「まともな勝負したのでは絶対勝てない」と思われたからこそこうなっているわけで、ある意味喜ぶべきことなのかもしれませんが。」

イ このブログ記事に対して、コンピューター将棋自体に批判的か又はコンピューター将棋が棋士相手に善戦や勝利をすること自体を良く思っていないと思われる一部のブログ閲覧者らから、

「そもそも「普通の将棋」って何ですかね？将棋の知識が乏しい人の的外れな意見に驚いています。」

「そもそも【「まともな」将棋】とは何ですか？米長さんの62玉とかでなく、ツツカナの4手目 74 歩からの意図的な乱戦でもなく、塚田戦はまともな矢倉戦になったわけですから。。」

などといわれのない批判コメントを複数投稿された。

ウ これらの批判コメントに対し、原告は、「コメントのコメント」と題し、翌4月15日に下記の補足のブログ記事を掲載した（一部の抜粋である。甲5の2）。

「なんか異様に反響が大きいですね。ちょっと読み返して説明不足のところもあったかもしれませんが、前記事にコメントいただいた内容に対して少し補足します。

まず、「入玉批判はおかしい」というコメントが山のように来てるんですが、批判してないです。入玉は正当な作戦。記事にはっきり「悪くない」と書いてるんだけど、この種のコメントはすみませんが掲載(コメント承認)対象から外していますのでご了承ください。数が多くて、他のコメントが埋もれて見えなくなるので。